

1. 件 名：訓練のあり方及び規制の関与の検討に係る試行について

2. 日 時：令和5年6月2日 15:00～16:00

3. 場 所：原子力規制庁3階 室内会議卓

4. 出席者（テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁

緊急事案対策室

川崎企画調整官、反町専門職

実用炉監視部門

菊川管理官補佐

専門検査部門

岡村主任原子力専門検査官、長澤主任原子力専門検査官

核セキュリティ部門

廣瀬管理官補佐

北海道電力株式会社

原子力事業統括部 原子力業務グループ 副主幹

東北電力株式会社

原子力本部 原子力部（原子力防災担当） 課長 他3名

東京電力ホールディングス株式会社

原子力運営管理部 防災安全グループ 課長

中部電力株式会社

原子力部 防災・核物質防護グループ 課長

北陸電力株式会社

原子力本部 原子力部 原子力防災チーム 副課長

関西電力株式会社

原子力事業本部 安全・防災グループ マネジャー 他4名

中国電力株式会社

電源事業本部（原子力運営） 副長 他1名

四国電力株式会社

原子力本部 管理グループ グループリーダー 他6名

九州電力株式会社

原子力発電本部 原子力防災グループ グループ長 他4名

日本原子力発電株式会社

発電管理室 警備・防災グループ 部長

原子力エネルギー協議会

副長

## 5. 要 旨

関西電力株式会社から、今年度試行を予定している保安規定に基づく現場シーケンス訓練と兼ねる事業者防災訓練について、4月5日の面談を踏まえて見直した資料1に基づき説明があった。

原子力規制庁から、保安規定上の現場シーケンス訓練（資料1の「A種」）について、今年度通常どおり実施されることを確認した。

また、原子力規制庁から、以下のとおりコメントした。

- B種について、ERCのフロントとの連携は確認する必要があり、今年度の試行ではコントローラーによる模擬ERCで対応することを含めて検討する。
- 大規模損壊との連携については、得られる気づきが突拍子もないものになるかどうかは実施してみないことには言えないので、一度実施した上で、大規模損壊との連携の妥当性を論じるべき
- B種の検査については、今年度の試行を踏まえて検討する。

関西電力株式会社から、コメントを踏まえて準備を進める旨の回答があった。

## 6. その他

配布資料：

- 資料1 能力向上に資する現場シーケンス訓練の試行方針について  
（関西電力株式会社）